

コメディリリック第3回「WORKじよじよ」

「ブラックホワイト」

登場人物

齋藤 野彦

白石 シロスコフ

社長 ペイリー・チャイルド

※白石、板付き

【L・明転】

※齋藤、登場

齋藤 「やべー」

白石 「どうした？」

齋藤 「昨日作った資料のデータが壊れてて」

白石 「えーもう会議始まるじゃん」

齋藤 「そうですよねー…」

※社長、登場

社長 「ハッピー。今日もグローバル」

白石 「社長、おはようございます」

齋藤 「社長…あの…」

社長 「どうした？クエスチョンだよ？」

齋藤 「会議資料のデータが壊れちゃって…」

社長 「あーそう…オーライ！」

白石 「大丈夫ですか？」

社長

「オーライだよ！てかもう資料とか無くそう。口頭で充分伝わるじゃん！可能なだけ無駄を省いて、勤務時間短めていこう！」

白石

「さらに短めますか？今、9時から15時の6時間ですよね？」

社長

「もう1時間縮めて10（テン）から15（ジュウゴ）の5時間でいこう！」

白石

「大丈夫ですか？」

社長

「一日8時間勤務？遅い遅い。残業？ありえないナンセンス。固定概念を変えれば、全員が自分の時間を持つことができる」

齋藤

「かっけー」

社長

「何のために働くか？それは人生を豊かにするため。だったら会社がその邪魔してちゃノーノー。俺たちは常に働き方改革。齋藤、お前が会議の資料を作る概念を壊すきっかけをくれた。ありがとう」

齋藤

「いやいや、そんな」

社長

「オーブンザワールドナウオンセール」

※社長、はける

齋藤

「社長かっけー」

白石C 「結局こういうのが金持ちになるんだよな」

齋藤 「うちの会社って本当ホワイトですよ  
ね」

白石 「まあ、そうだね」  
齋藤 「いやー、この会社入ってよかった」

※社長、登場

白石 「社長、どうしました？」  
社長 「もう会議も無くしちゃおうかなと思っ  
て」

白石 「え、大丈夫ですか？」  
社長 「働き方改革…いや革命だね。話し合い  
って話さなくてもできると思うんだよ  
ね」

白石C 「今のわかりました？」  
社長 「おいおい、考えるな。感じる」  
齋藤 「LINEとかでやる感じですか？」  
社長 「そうそう！その方がスタンプとか使え  
るしね。齋藤、お前も使いたいだろ？ス  
タンプ」

齋藤 「はい！使いたいです！」  
白石C 「どういうこと？」  
社長 「だよな。よし会議は無しで」

白石 「でも決めななきやいけないことが…」  
社長 「決めたい奴が決める。齋藤、決めたい  
奴が決めようって会社のグループに投稿  
して」

齋藤 「はい！」

白石 「そのやり方で大丈夫でしょうか？」  
社長 「大丈夫だよ。なんだって俺、自家用ジ  
エット持つてるからな」

白石C 「説得の材料になりますか？」

齋藤 「社長：自分のLINEのパスワード忘  
れてしまった…」

社長 「じゃあ、白石が言っというて」  
白石C 「…やだなあ」

齋藤 「すいません！」  
社長 「いいよ齋藤！それより、今年の夏、イ  
ンスタ充実してたなあ！ストーリー！」

齋藤 「あ、見てくれてたんですね！」  
社長 「見てたよ！BBQ最高だった！？」

齋藤 「最高でした！」  
社長 「花火も見えてな！最高だった！？」

齋藤 「最高でした！」  
社長 「フェスとかも行ったってー最高だっ  
た！？」

齋藤 「最高でした！」

社長 「人生豊か？」  
齋藤 「豊かです！この会社のおかげです！社長のおかげです！ありがとうございます！すす！」  
社長 「パーフェクトサマー！」  
齋藤 「はい！」  
社長 「白石、お前はどうかだったの？」  
白石 「え、自分ですか？」  
社長 「お前のサマーは」  
白石 「普通ですね」  
社長 「B B Q した？」  
白石 「してないですね」  
社長 「花火は？」  
白石 「してないですね」  
社長 「フェス行った？」  
白石 「行ったこと無いですね」  
社長 「お前、何やってんの？」  
白石 「最近の仕事が一番楽しいですね。やりがいも、より一層でてきて」  
社長 「おい」  
白石 「はい」  
社長 「てめー舐めてんのか？」  
白石 「え、いや、舐めてなんか」  
社長 「舐めてるよな。完全に」

白石 「え、急になんですか？」  
社長 「何？仕事が一番つて。フェスフェスフェス！フェス行けよ！おい！」  
白石 「え？」  
社長 「フェス行けよ！おい！フェスフェスフェス！」  
白石 C 「フェスそんな楽しい？」  
社長 「何のために働き方を改革してると思っ  
てんだよ！」  
白石 「いや、でも、僕フェスとかそんな興味  
ないんで」  
社長 「じゃあ、何に興味があんだよ？」  
白石 「今は…そうですね…やっぱり仕事です  
ね」  
社長 「お前さ…いい加減にしろよ」  
白石 「え」  
社長 「自分の時間！自分の時間！自分の人  
生！満喫してもらわないとさあ！意味な  
いじゃん！なあ！？」  
齋藤 「社長、言いづらいんですけど、白石さ  
ん残業とかもたまにしてて」  
社長 「ええ？嫌がらせ？」  
白石 C 「なんで怒られてんの？」

社長

「会社のためを思ってるんならB B Qしてください。フェス行ってください」

白石

「なぜですか？」

社長

「ホワイトな場所にしたから。ブラック企業とかある中でこの会社はホワイトな場所でありたいわけ。みんなで努力しなきゃホワイトって手に入らないから」

白石

「はあ…」

社長

「仕事が終わって飲み歩く奴、映画観る奴、ボルダリングする奴、みんな違ってみんないい。お前、ダメ。お前だけ、ダメ」

白石

「すいません」

社長

「今週中に必ず海行くか、B B Qしろ」

白石

「ちよつと難しいです」

社長

「ちゃんとやれよ！社会人だろ！」

白石

「すいません…」

社長

「よし分かった。じゃあ今度から休日はずっと俺と遊べ。とりあえず今日の夜はクラブ行くから。サイバージャパンと飲む約束してっから」

白石

「いや、そんなプライベートにお邪魔するなんて…」

社長

「大丈夫。白石、オープンザワールド。お前は勝者なんだよ？稼ぎもそれなりで、休みも取れて、自分の時間も作れる。この世界の勝者だってことを俺が自覚させてやる。ウイナー！」

※社長、はける

齋藤

「うわー社長と遊べるとか、よかつたっすね！」

白石C

「…しんどいなあ…」

【し・暗転】

—了—